



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	序； 凡例； 目次
Description	序の著者： 北海道大学総長 中村 睦男
Citation	北大百二十五年史, 通説編, i-x x iii
Issue Date	2003-12-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/28161
Type	other
File Information	hokudai125yr_tsusetsu_jo.pdf



北大百二十五年史

通
說
編

序

北海道大学は、大学院に重点を置く基幹総合大学であり、その起源は、日本最初の近代的大学として一八七六(明治九)年に設立された札幌農学校に遡る。その後、東北帝国大学農科大学(一九〇七―一九一八年)、北海道帝国大学(一九一八―一九四九年)を経て、一九四九(昭和二四)年五月三十一日、国立大学設置法により新制北海道大学が設置され、現在、一二の学部、一四の大学院研究科、三つの附置研究所、三つの全国共同利用施設、言語文化部、附属図書館、附属病院などを擁する総合大学に成長するに至っている。

北海道大学は、二〇〇四年四月から国立大学法人法により国立大学法人北海道大学に設置形態を変えることになっており、大きな時代の転換点に置かれている。国立大学法人としての歩みを始めるにあたって、本学は、二〇〇三年九月十七日の評議会において、「北海道大学の基本理念と長期目標」を定めた。その内容は、一二七年に及ぶ歴史のなかで培われた「フロンティア精神」、「国際性の涵養」、「全人教育」および「実学の重視」という教育研究に関わる基本理念を再確認するとともに、二一世紀における知の創成、伝承、実証の拠点として発展するための長期的な目標を定めるものになっている。

クラーク博士の「 *lofty ambition*」(高邁なる大志)という言葉辞を端緒とする「フロンティア精神」は、「学生及び教職員がそれぞれの時代の課題を引き受け、敢然として新しい道を切り拓いていくべきであるとする理想主義」を意味し、二一世紀に至り、学問におけるパラダイム転換や新たに提起された人類史的課題に答え得る研究を不断に展開するために、「学問の自由を基礎に、純理と応用の別を問わない創造性豊かな研究を推進するとともに、大学院組織等の柔軟な展開を通じて研究教育機能を飛躍的に発展させることにより、人類史的課題に答え得る世界水準の研究の推進を目指す」ものである。

設立当初の札幌農学校に顕著に開花していた「国際性の涵養」の理念は、「教養教育の充実によって自文化の自覚に裏づけられた異文化理解能力を養い、外国語コミュニケーション能力を高め、国際的に活躍できる人材を育成する」とともに、「学生及び教職員の国際性を涵養し、国際社会の発展に寄与するため、海外留学・研修の機会を拡大するとともに、外国人研究者・留学生の受け入れを積極的に推進し、アジア・北方圏をはじめとする世界の人々との文化的・社会的交流の促進を目指す」ことを要請している。

農業専門家の養成に止まらず、豊かな人間性と高い知性を兼ね備え、広い教養を身につけた人間の育成を図った札幌農学校に始まる「全人教育」の理念は、教養教育を重視する伝統として継承され、今日さらに発展させるために、「豊かな人間性と高い知性を涵養する幅広い人間教育を進め、自由・自主独立の精神の涵養と自律的個の確立を図るとともに、人権を尊重し、社会的要請に的確に対応しうる基盤的能力の育成を目指す」ことを目標にしている。

「実学の重視」という理念は、「現実世界と一体となった普遍的学問の創造としての研究と、基礎研究のみならず応用や実用化を重んじ研究成果の社会還元を重視する」という二つの意味を含みつつ定着し、さらに今日、「現実世界と一体となった普遍的真理や、北海道の特性を生かした学問の創造を推進するとともに、産学官の連携協働の拡大を通じて、研究成果を北海道、さらに日本、世界に還元する」ことと、あわせて「大学院における高度な専門家及び職業人の養成並びに社会人教育を充実させることを目指す」ことにつながっている。

北海道大学は、二〇〇一（平成一三）年に創基一二五周年を迎え、記念事業の一環として百二十五年史編集室を設置して、創基一二五周年を記念する出版物を編纂し、刊行にあたった。本書『北大百二十五年史』通説編の刊行によって、その別冊である論文・資料編（二〇〇三年三月刊行）とともに『北大百二十五年史』全二冊を構成し、既刊の小史『北大の125年』および『写真集北大125年』（それぞれ二〇〇一年三月および十二月刊行）を加えて、計画どおり百二十五年史編集室の仕事を成し遂げた。法人化にあたって北海道大学の個性と特色を明らかにし、教育

研究の水準をさらに高めて基幹総合大学としての存在意義を社会に示していくことが強く求められていることを考えると、『北大百二十五年史』の刊行は真に時宜にかなっているといえる。

北海道大学史の研究は、北海道大学百年史編纂事業において刊行された『北大百年史』全四巻および『写真集北大百年』に、今回の百二十五年史編纂事業による刊行物が加わることによって相当の蓄積を行うことができた。しかしながら、北海道大学史の研究はなおその出発点に立った段階であり、今後さらに継続的・多面的に発展させる必要がある。そのため、北海道大学文書館（仮称）設置検討ワーキンググループが二〇〇三年十月に提出した答申に基づき、「北海道大学の歴史に関わる各種の資料の収集・整理・保存・公開、及び調査研究を行うための機関」としての北海道大学文書館（仮称）を設置する方針を決定したところである。

本書の出版にあたってご尽力賜った、通史執筆者の方々、編集の任を務められた百二十五年史編集室の原暉之スラブ研究センター教授（編集室長）、井上高聡編集員はじめ編集室員、編集補助および編集顧問の方々に深く感謝するしだいである。

二〇〇三（平成一五）年十月

北海道大学総長 中村 睦 男

凡例

一、『北大百二十五年史』は、北海道大学の前身である札幌農学校開校（一八七六年）以前の事情から創基一二五周年（二〇〇一年）までを中心に記述し、通説編と論文・資料編の全二巻よりなる。

一、本巻（通説編）は第一部「通史」と第二部「部局史」の二部構成である。

一、文章の体裁等は、左記の諸項によった。

- 1 原則として当用漢字、現代かなづかいを使用した。固有名詞・学術用語等を表記する際には適宜判断した。
- 2 紀年は西暦により、元号を表記する場合は（ ）に入れた。学年歴上の年度や会計年度も西暦で表示した。
一八七二年以前の年月日は元号年をそのまま西暦年に置き換え、月日のみ太陰暦に従って表記した。
- 3 二〇〇二年三月より使用されている「看護師」「助産師」「保健師」等の呼称については、記述が改称以前の内容に止まっているため、混乱を避けて「看護婦」「助産婦」「保健婦」等を使用した。

一、第一部「通史」について

- 1 「通史」は、原則として創基一二五周年の記念式典が開催された二〇〇一年十月までの内容を記述した。
- 2 一九六八年までを記述した第一編は、『北大百年史』通説の「通史」の内容を圧縮し、適宜加筆した。
- 3 第二丁四編は新たに執筆した。

一、第二部「部局史」について

- 1 「部局史」は、原則として二〇〇一年三月までの内容を記述した。
- 2 『北大百年史』部局史で記述した一九七六年までの内容は簡略に記述し、七七年以降の記述に重きを置いた。
- 3 「部局史」の項目は、二〇〇一年三月現在の北海道大学の組織に基づいて構成した。

北大百二十五年史 通説編 目次

序 北海道大学総長 中村 睦 男

凡 例

第一部 通史 1

第一編 札幌農学校から北海道大学へ（一八七二—一九六八年） 3

第一章 札幌農学校の設置 5

第一節 前史 5

- 一 開拓使の設置
- 二 開拓使仮学校
- 三 様々な仮学校教育と女学校
- 四 仮学校の日常生活と主な出来事

第二節 札幌農学校の創設 13

- 一 専門科の開設準備と専門教師の招聘
- 二 第一期入学生と農学校の開校

第三節 札幌農学校の制度と施設 16

- 一 札幌農学校諸規則と教職員
- 二 施設の拡充
- 三 予科の設置と二期以降の生徒募集

第四節 札幌農学校の教育と生活 23

- 一 農学校の授業
- 二 課外活動
- 三 卒業式と卒業生

四	教師陣の交代	五	農学校とキリスト教	六	生徒たちの生活	32
第五節	開拓使廃止後の札幌農学校	一	開拓使の廃止と農商務省への移管	二	職制の変化と教職員	32
		三	農商務省管轄下の農学校			
第二章	札幌農学校の再編					36
第一節	北海道庁管轄下の札幌農学校	一	金子堅太郎の農学校批判	二	道庁設置と農園縮小	36
		三	佐藤昌介の意見書	四	官制発布と校則改正	
		五	農芸伝習科の設置	六	兵学科の設置	
		七	外国人教師の雇用と日本人教師の育成	八	農園の拡張	
第二節	文部省への移管	一	同窓会の農園経営	二	経費節減と官制改正	44
		三	農学校廃止論の浮上	四	卒業生の動向	
		五	文部省への移管	六	維持資金の形成	
第三節	札幌農学校の拡張	一	移管直後の農学校	二	各科の整理と増設	51
		四	拡張にむけて	五	施設・機構の充実と校則の改正	
		六	さらなる拡張	七	拡張実現の要因	
				八	教師や学生の活動	
第三章	東北帝国大学農科大学から北海道帝国大学へ					61
第一節	北海道帝国大学創設に至る過程	一	大学設置運動の展開	二	東北帝国大学農科大学の概要	61
		三	北海道帝国大学の設置	四	総合大学化の模索	

第二節	大学運営の機構とその変遷	70
一	東北帝国大学農科大学の運営	
二	北海道帝国大学の運営組織	
三	各種規則の変遷	
第三節	学生・生徒の生活と活動	76
一	学生の一年	
二	学生・生徒数の推移と出身地	
三	卒業生の資格・就職状況	
四	学生の活動と社会運動	
五	恵迪寮	
第四章	戦中・戦後の北海道帝国大学	82
第一節	戦時体制下の大学	82
一	戦時体制と大学	
二	学生の諸相	
三	戦争への動員	
第二節	敗戦直後の大学	93
一	敗戦と改革	
二	学生の諸相	
第五章	戦後の北海道大学	101
第一節	新制北海道大学への改組およびその後の拡張	101
一	新制北海道大学の構想	
二	新制北海道大学の誕生	
三	包括学校の終焉	
四	「移行期」における学部拡充	
五	「拡張期」における学部拡充	
六	大学院の改組・拡張状況	
七	学内研究施設の様相	
第二節	新制北海道大学の管理運営体制	114
一	管理運営体制の整備	
二	高瀬文相事件・イルズ事件	
三	戦後の北海道大学長	
四	事務局・学生部・学生委員会	
五	農場・演習林の解放	
第三節	教育・研究体制と学内の諸状況	117

第二編 北海道大学の拡充（一九六九～一九八八年）…………… 125

第一章 大学紛争…………… 127

第一節 大学紛争の発生展開…………… 127

第二節 北大紛争の特質と問題…………… 128

第三節 北大紛争の原因…………… 129

第四節 紛争後の改革の取り組み…………… 132

- 一 大学が抱えていた課題……………
- 二 教養課程の問題……………

第二章 大学の組織・運営・環境の改編…………… 135

第一節 大学の管理・運営…………… 135

- 一 大学紛争後の大学運営……………
- 二 一〇〇周年記念事業……………
- 三 一〇〇周年後の大学運営……………

第二節 教育・研究組織の充実…………… 139

- 一 環境科学研究科の設置……………
- 二 医療技術短期大学の開設……………
- 三 学内共同教育研究施設の設置……………

第三節 学術情報システムの整備…………… 142

- 一 「北海道大学計算センター」の発足……………
- 二 全国共同利用施設「北海道大学大型計算機センター」の発足……………
- 三 大型計算機センターシステムの変遷……………
- 四 学術情報システムとネットワーク……………

第三章	入学試験制度	147
第一節	一九七八年までの北海道大学の入学試験	147
第二節	共通第一次学力試験の実施	148
第三節	分離・分割方式の導入にむけて	150
第四章	教養部改革	153
第一節	教養課程の見直し	154
一	北大方式の見直し	154
二	教養課程の改革	157
第二節	教養部改革の検討	157
一	学科目の講座化	157
二	言語文化部の創設	157
三	教養砂漠	157
四	学生編成	157
五	総合科目（講義）の開設	157
六	教養課程教育協議会	157
第三節	教養部改革の実施	162
一	教育課程の改訂	162
二	教養部将来計画委員会	162
三	大学院重点化構想と一般教育	162
第五章	国際交流の推進	164
第一節	外国人留学生受け入れ体制の整備	164
第二節	海外の大学との学術交流	166
第三節	国際交流関係事業の整備	168
第三編	北海道大学の再編（一九八九～二〇〇一年）	171
第一章	大学の組織・運営・環境の整備	173
第一節	大学の管理・運営	173
一	変革の中の大学運営	173
二	総長権限の強化	173

第二節	教育・研究組織の整備	177
一	附置研究所・センターの改組	
二	先端科学研究の推進	
三	既存組織の協力・合併による改編	
第三節	自己点検評価	180
一	自己点検・評価問題	
二	自己点検・評価の実施	
第四節	情報ネットワークの整備	183
一	第一期システム	
二	第二期システム	
三	第三期システム	
HINESの誕生		
HINESスーパー情報ハイウェイ		
ギガビットネットワークの時代		
第二章	入学試験制度	190
第一節	分離・分割方式と大学入試センター試験	190
第二節	学部一貫教育体制と入学試験	192
第三節	開かれた大学と入学試験	194
第三章	大学院改革	196
第一節	大学院改革の前提	197
一	制度的枠組み	
二	大学院学生数の変動	
三	学位の種類と授与数	
第二節	大学院改革整備構想	202
第三節	大学院重点化	204
第四章	全学教育	208
第一節	教養部の廃止	208
一	大学設置基準の大綱化	
二	学部一貫教育体制への転換	
三	一般教育等実施体制検討委員会の活動	

第二節	四 教養部の廃止と高等教育機能開発総合センターの設置	213
全学教育の実施	一 全学教育実施体制の発足	213
二 全学教育委員会	三 全学教育検討委員会	213
四 コアカリキュラムの構築		213
第五章	国際交流の発展	220
第一節	留学生事業の推進	220
第二節	国際交流事業の推進	227
第六章	二〇〇一年の北海道大学	233
第一節	行財政改革と大学改革	233
第二節	新世紀における北海道大学像を求めて	236
第三節	一二五周年記念事業	242
第四節	北海道大学の現況	243
第四編	キャンパスの変遷	249
第一章	東京芝増上寺内の開拓使仮学校 一八七二—一八七五年	251
第一節	増上寺内への仮学校開設	251
第二節	札幌移転	252
第二章	札幌農学校北一条キャンパスの形成 一八七五—一九〇三年	253
第一節	札幌学校期の講堂・寄宿所	254
第二節	書籍庫・舎密所	256
第三節	本草園と植物園・博物場	257

第四節	農饗園	258
第五節	演武場と観象台	259
第六節	開拓使廃止後の札幌農学校キャンパス	261
第三章	北八条キャンパスの誕生	262
第一節	(札幌キャンパス第一期) 一九〇三―一九一八年	263
第二節	キャンパスの移転と校舎建築の経緯	269
第三節	東北帝国大学農科大学への改組と古河家寄付事業	272
第四節	植物園および農場の施設整備	273
第四章	札幌キャンパスの拡大	273
第一節	(札幌キャンパス第二期) 一九一八―一九五九年	273
第二節	スティックスタイルからセツションへ 木造の時代	273
第三節	キャンパスゴシックとインターナショナルスタイル	279
第四節	鉄筋コンクリート構造への転換	282
第五章	戦中・戦後のキャンパス	284
第一節	札幌キャンパスの変容と整備	284
第二節	(札幌キャンパス第一期) 一九五九―一九九六年	284
第三節	施設拡張期(一九五九―七一年)	288
第四節	構内環境整備期(一九七二―八五年)	288
第五節	施設の更新と高層化(一九八六―九六年)	292

第六章	二一世紀に向けての札幌キャンパス形成	一九九六～二〇〇一年	294
第一節	「キャンパス・マスタープラン96」の策定	295
第二節	「キャンパス・マスタープラン96」の位置づけと基本的考え方	296
第三節	キャンパス計画と連動した施設整備	298
第七章	函館キャンパスの変遷	302
第一節	戦前の函館キャンパス	函館高等水産学校から函館水産専門学校	302
第二節	戦後の函館キャンパス	北海道大学水産学部	304
第八章	札幌キャンパスの地形と遺跡	306
第一節	札幌キャンパス・ナビゲーター	306
第二節	地形と遺跡	308
第三節	二つの地底世界	擦文文化と続縄文文化	310
通史参考文献	313
通史執筆者	321
第二部	部局史	323
文学研究科・文学部	325
第一章	北大文学部の歴史的事件	藤井事件
第二章	文学部・文学研究科の改革
第三章	人と研究

教育学研究科・教育学部 385

- 第一章 学部創設から確立期まで
- 第二章 学部一貫教育体制に向けたカリキュラムの整備
- 第三章 教育研究組織の整備

法学研究科・法学部 403

- 第一章 学部発足から改組まで
- 第二章 教育・研究の新展開
- 第三章 開かれた法学部へ
- 第四章 大学院大学への道

経済学研究科・経済学部 423

- 第一章 大学院経済学研究科と経済学部の生誕
- 第二章 発展・拡充のみちのり
- 第三章 大学紛争と経済学部
- 第四章 経済学部の構造的改革と大学院重点化
- 第五章 経済学部教育の構造的改革と変容

理学研究科・理学部 451

- 第一章 理学部四六年小史
- 第二章 その後の二五年
- 第三章 大学院改革
- 第四章 現状と将来の展望

医学研究科・医学部

- 第一章 創基一〇〇年までの概史
- 第二章 一〇〇年から二二五年まで

505

医学部附属病院

- 第一章 北海道大学医学部附属病院概史
- 第二章 診療内科系
- 第三章 診療外科系
- 第四章 中央診療施設
- 第五章 薬剤部
- 第六章 看護部
- 第七章 登別分院
- 第八章 医学部附属病院の現状と展望

563

歯学研究科・歯学部

- 序章 歯学部の創設まで（一九二七～六六年）
- 第一章 学部創設期（一九六七～七六年）
- 第二章 学部充実期（一九七七～八七年）
- 第三章 学部改革期（一九八八～二〇〇二年）

649

歯学部附属病院

- 第一章 歯学部附属病院創設期（一九六七～七六年）
- 第二章 病院拡充期（一九七七～八七年）

681

第三章 病院変革期（一九八八～九六年）

第四章 病院改革期（一九九七年～）

薬学研究科・薬学部

第一章 医学部薬学科創設と薬学部昇格

第二章 教育・研究の改革と発展

第三章 大学院の重点化と医療薬学の充実

第四章 研究・教育活動の成果

第五章 二一世紀の発展に向けて 現状と展望

第六章 附属関連施設の動き 附属薬用植物園

工学研究科・工学部

第一章 工学部新設から北海道大学創立一二五周年に至るまで

第二章 新しい工学を担う新学科等の設置

第三章 既設学科のその後の発展と変遷

第四章 改革への助走 一九八五～九一年

第五章 教育改革の時代（工学部から工学研究科へ） 一九九二～九八年

第六章 新工学研究科・工学部の組織 大学院重点化後の姿

第七章 開かれた工学研究科・工学部への始動

第八章 工学部再開発と新築計画

第九章 工学部と各研究センター

第一〇章 工業教育から工学教育、そしてエンジニアリング教育へ

農学研究科・農学部

第一章 通史

第二章 学科

第三章 附属施設

799

農学部附属農場

第一章 附属農場の展開（前史を含めて）

第二章 学内農場の縮小と整備

第三章 新たな組織改革の模索

第四章 現組織の改革

第五章 実習教育について

883

農学部附属演習林

第一章 基本財産から林業経営体へ（一九七六年まで）

第二章 新しい北海道大学演習林（一九八〇年代以降）

長期計画の策定とフィールド教育・研究機関への展開

第三章 近代的教育・研究機関へ発展する地方演習林

第四章 演習林の二世紀へ

899

獣医学研究科・獣医学部

第一章 学部独立前（農学部時代）

第二章 学部独立と学部の充実

第三章 獣医学部新館建設

925

第四章	六年制教育	
第五章	大学院重点化	
第六章	施設の新築・改修	
第七章	獣医学部附属家畜病院（通称 動物病院）	
第八章	国際交流	
水産科学研究科・水産学部	949
第一章	水産科学研究科・水産学部	
第二章	実験所・施設等の変遷	
第三章	練習船　研究調査船・二〇〇二年三船体制から二船体制へ	
第四章	北水同窓会の歩み	
言語文化部	1001
第一章	言語文化部の創設	
第二章	教育の歩み	
第三章	研究部門の充実	
第四章	大学院設置	
地球環境科学研究科	1025
第一章	環境科学研究科の理念と沿革	
第二章	地球環境科学研究科の構想と沿革	

国際広報メディア研究科	1037
第一章 国際広報メディア研究科の創設	
第二章 教育・研究体制とその特徴	
低温科学研究所	1049
第一章 創立から一九七六年までの低温科学研究所	
第二章 各部門の研究概要（一九七七年から九四年まで）	
第三章 改組（一九九五年）以降の低温科学研究所	
電子科学研究所	1077
第一章 沿革	
第二章 電子科学研究所の研究	
遺伝子病制御研究所	1099
第一章 北方結核研究所の設立	
第二章 北海道大学結核研究所	
第三章 免疫科学研究所への改組とその後の歩み	
第四章 免疫科学研究所と医学部附属癌研究施設統合による 遺伝子病制御研究所のスタート	
触媒化学研究センター	1111
第一章 研究センターの概要	
第二章 触媒化学の流れ	

第三章	触媒研究所	
第四章	触媒化学研究センター	
	スラブ研究センター	1123
第一章	準備期	
第二章	法学部附属施設期	
第三章	学内共同教育研究施設期	
第四章	全国共同利用施設期	
	大型計算機センター	1137
第一章	設置の経緯	
第二章	計算機システムの変遷	
第三章	情報ネットワークシステムの变遷	
	アイソトープ総合センター	1149
	機器分析センター	1151
	実験生物センター	1153
	遣伝子実験施設	1155
	留学生センター	1157
第一章	留学生センター設立前	
第二章	留学生センターの設立	

高等教育機能開発総合センター	1171
第一章 予科	
第二章 教養部	
第三章 教養部の廃止と高等教育機能開発総合センターの設置	
第四章 高等教育機能開発総合センターの発展	
先端科学技術共同研究センター	1225
第一章 先端科学技術共同研究センター設置前史	
第二章 先端科学技術共同研究センターの活動	
第三章 北キャンパスにおける産学官連携機関の集積とセンターの改組	
情報メディア教育研究総合センター	1233
第一章 前史	
第二章 情報処理教育センター	
第三章 情報メディア教育研究総合センター	
総合博物館	1243
保健管理センター	1249
体育指導センター	1253
第一章 スポーツ・トレーニングセンターから体育指導センターへ	
第二章 トレーニングの指導	
第三章 研究活動・社会貢献	

第四章	さらなる発展の鼓動	1259
	医療技術短期大学部	1259
第一章	通史	1259
第二章	学科等	1259
	附属図書館	1273
第一章	図書館へ創設から一〇〇年まで	1273
第二章	二一世紀をひらく図書館をめざして	1273
	事務局	1305
第一章	事務局	1305
第二章	学生部	1305
あとがき	北海道大学百二十五年史編集室長 原 暉 之	1335
北海道大学創基百二十五年周年記念事業実行委員会出版等専門委員会		1341
百二十五年史世話人会		1343
北海道大学百二十五年史編集室		1343

